



議会だより

でいすかす

127号

発行：登別市議会／編集：広聴・公開委員会／発行日：2025.6.1

登別市議会

で

検索

または



市議会ウェブサイトやフェイスブックページで、議会の活動や各種情報をご覧ください

令和7年5月13日に開催した第3回登別市議会臨時会において、辻前議長と村井前副議長の辞職に伴い、議長・副議長選挙が行われ、同日付けで新たに千田議員が議長に、小栗議員が副議長に就任しました。また、各委員会の委員が新たに選任されましたので、議長・副議長就任のごあいさつと全議員の紹介、各委員会構成をお知らせします。

副議長就任ごあいさつ



副議長

おぐり よしろう
小栗 義朗

本市は急速に進む人口減少の中、市役所本庁舎の建設が始まり、さらにクリンクルセンター再延命化事業、学校給食センター共同整備事業といった大型事業の実施が予定されるなど、ますます厳しい財政運営を強いられることとなりますので、予算も含めた市政執行に対して、議員による監視機能が十分に発揮できるよう尽力していきたいと考えております。

また、次期改選時には議員定数が16人となることから、今後の議会運営などについて、十分

な協議の下で議員間の合意形成が図れるよう努めます。

副議長は、議長を補佐することが重要な役割と考えますが、その上で、議員全員が多様性を尊重しながら、本市が抱える諸課題に一丸となって取り組み、さらなる市政の発展につながる議会運営ができるよう努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

議長就任ごあいさつ



議長

ちだ ふみたか
千田 文孝

本市議会は次期改選後の定数を19名から16名に改定しました。この2年間は、16名での議会運営に関する検討や厳しい社会情勢の中で、議員の成り手不足解消を考慮した報酬の検討、さらなる議会・議員活動の「見える化」の推進が鍵となります。また、議会の課題に対する取組方法を人が変わっても継続的に進める仕組みに大きく転換していきます。市民との協働のまちづくりに向けた意見交換や課題の収集方法がその活動の根幹を成します。

19名の議員で活動する最後の任期となります。多様な多角的な視点と柔軟な思考力を結集し、議会力の向上を図って、二元代表制の一翼を担う議会が一枚岩となって突き進み、住民福祉の向上に努めてまいります。皆さまにおかれましては、より一層のご意見、ご協力をお願い申し上げ、就任のあいさつとさせていただきます。

議員の紹介

(五十音順で掲載)



いわた めぐみ
岩田 恵
市政クラブ



いの まさおみ
井野 正臣
市民・前進



いとう けんた
伊藤 健太
市民・前進



あだち ともや
足立 知也
無所属・無会派



すぎお なおき
杉尾 直樹
市政クラブ



ささき くみこ
佐々木 久美子
日本共産党



こんの まさひろ
今野 幹大
公明党



くどう くにお
工藤 倶二雄
市民・前進



かなざわ のりお
金澤 則男
日本共産党

予算・決算委員会

委員長 辻 弘 之
副委員長 井 野 正 臣

議長を除く全議員で構成

議会運営委員会

委員長 今 野 幹 大
副委員長 伊 藤 健 太

戸 井 肇 岩 田 恵
田 中 寛 宮 武 子
天神林 美 彦 佐々木 久美子

生活・福祉委員会

委員長 宮 武 祥 子
副委員長 金 澤 則 男

井 野 正 臣 成 田 昭 浩
小 栗 義 朗 辻 弘 之

総務・教育委員会

委員長 戸 井 肇
副委員長 岩 田 恵

伊 藤 健 太 今 野 幹 大
佐々木 久美子 若 木 康 夫

広聴・公開委員会

委員長 成 田 昭 浩
副委員長 村 井 寿 行

あ だ とも や かな ざわ のり お
足 立 知 也 金 澤 則 男
宮 武 祥 子 工 藤 倶 二 雄

観光・経済委員会

委員長 工 藤 倶 二 雄
副委員長 足 立 知 也

た なか かん じ 志 天 じんばやし よし ひこ
田 中 寛 寿 行 杉 林 美 な お 彦
村 井 藤 行 尾 直 樹



なり あきひろ
成田 昭浩
市民・前進



と い はじめ
戸井 肇
市民・前進



てん じんばやし よしひこ
天神林 美彦
市民・前進



つじ ひろ し
辻 弘之
市政クラブ



た なか かん じ
田中 寛志
市政クラブ



わか き やす お
若木 康夫
市政クラブ



むら い としゆき
村井 寿行
公明党



みやたけ しょうこ
宮武 祥子
市政クラブ

令和7年3月13日（木）～18日（火）

予算審査 特集

委員16名が
令和7年度予算を問う

令和7年第1回定例会において、3月13日～18日の4日間、予算・決算委員会（予算審査）を開催し、令和7年度の予算関連議案の審査を行いました。委員16名から194項目にわたる質疑の後、総括質疑を行い、審査は合計で17時間44分に及びました

令和7年度当初予算の内訳

全会計

468億5,820万円

（前年度当初予算比68億8,110万円増）

一般会計

310億8,400万円

（前年度当初予算比70億8,200万円増）

特別会計

101億9,830万円

（前年度当初予算比4億7,650万円減）

公営企業会計

55億7,590万円

（前年度当初予算比2億7,560万円増）

令和7年度 予算審査の概要

一般会計は過去最高額の310億8千400万円、特別会計は101億9千830万円、企業会計は55億7千590万円となり、繰越明許費分を含めた実質的な予算規模は47億665万円となりました。

一般会計では、予算増額のほとんどを占める市役所本庁舎建設事業費53億5千249万円、クリンフルセンター再延命化事業費3億8千40万円、西いぶり消防指令センター整備事業費2億6千998万円などの事業予算増により、予算総額としては前年度比約70億8千200万円の増となりました。また、3・5億円の財源不足が生じたため、北海道市町村備荒資金組合超過納付金の取り崩しで補う財政措置が2年続いている状況です。

4日間で行われた審議は、各特別会計は歳入歳出全般、企業会計は収支全般への質疑を行い、一般会計の歳出は各款ごとに、歳入は全般にわたり質疑を行うと共に、公明党、市民・前進、市政クラブ21の順で3会

派が総括質疑を行い、原案のとおり可決しました。

一般会計審査では、新規事業の取り組み内容、市役所新庁舎建設や現庁舎跡地利活用の可能性調査、まちの賑わい創出や観光振興に関連する事業、子育て支援や人口増加に関連する事業について、総括質疑では、財源の確保、市債残高、歳入確保の考え、公共施設面積や未利用財産などについての質疑が行われました。

（千田）



↑ 詳しい質疑の内容を録画中継でご覧いただくことができます。スマートフォン等をお持ちの方は、上記の二次元バーコードからぜひご覧ください。

予算・決算委員会（令和7年度予算審査）総括質疑、各委員の質疑

公明党

質 昨年3月の予算審査における公明党の総括質疑において、奨学金返還制度関連の質問で「単に若い方への支援にとどまらず、地域性や地域課題に対応した支援策としていくことが望ましいものと考えており、このような基本的な考えのもと、奨学金の返還も含めて他の先進的な取り組みなどを参考としながら若者の定住促進に取り組みでまいりたいと考えている」との答弁であったが、残念ながら今回の令和7年度予算に計上されなかった。

その理由について伺う。

答 制度設計において、助成額や対象事業、対象業種への考え方、日本工学院北海道専門学校や企業との連携の在り方など、整理しなければならぬ課題が多く、当初予算においては実施を見送った。

同制度については、若者世代の定住促進に効果が期待できる取り組みと認識しており、本市の特性を踏まえた効果的な制度とすることはもちろん、多分野の政策課題の解決にも資するよう検討を行い、令和8年度以降の事業化を目指していきたい。

（今野）

市民・前進

質 令和7年度予算は過去最大の前年比29・5%、金額にして70億8千200万円増の310億8千400万円となったが、人口が減少している中、身の丈に合った財政規模となっているのか。

答 中期的な財政運営も見据えながら、事業実施の判断、予算化を行っており、現状、本市が担うべき必要な経費であると考えている。

今後、人口規模が縮小しても経済成長し、社会を機能させる適応策を講じることが必要となる。

質 今後もしつそう厳しい財政運営を強いられることが予想され、事業の廃止と再構築に取り組むことが重要と考えるが、その取り組み状況は。

答 事務事業評価の結果、障がい福祉グループおよび商工労政グループにおける複数の事業の統合を行った。

事業の廃止などについては、市民や団体の理解を得ることも必要なことから、一朝一夕に結果を得られないケースもある。

その他、廃止施設の除却や民間への売却、主要施策調書における事業指標の明確化、予算編成に対する生成AIの活用などについて質疑しました。

（戸井）

市政クラブ21

質 令和7年度の一般会計予算が登別史上初の310億円となった理由は。

答 増額の主な要因は、市役所本庁舎建設事業費であるが、国の交付金や有利な事業債、各種基金積立金により財源不足は前年と同額の3・5億円にとどめることができた。

質 ふるさと納税の令和6年度の見込みと、令和7年度の予算額を伺う。

答 令和6年度は過去最高の14億円を更新し、令和7年度の目標額は15億円である。

質 ふるさと納税の主力返礼品のウニが占める寄付金額について伺う。

答 令和6年度のウニ指定の寄付見込み額は約9億円である。

質 寄付金額の約7割がウニであるが、天然物に依存しているのが現状である。安定的な税収確保の観点から、ウニの養殖などの施策展開が必要なのでは。

答 近年の自然災害の影響を懸念しており、本市として、それに備える必要があると認識しているが、養殖事業は専門的知識と施設が必要ことから、ウニだけではなく、魅力ある返礼品を増やすことで寄付を分散化し、リスク管理に努めていきたいと考えている。

（若木）

今後の国民健康保険の運営は

質 保険料は令和12年度に全道で統一されるが、本市の対応は。

答 北海道より示されている現時点で想定される数値は、現在の本市よりも高い位置にあるため、統一に向けて税率を引き上げる必要がある。

税率改正の具体的なタイミングや引き上げ幅などは、国保の財政状況を踏まえ、急激な保険税の上昇とならないよう、基金の活用や段階的な税率の引き上げなどについて、国民健康保険事業の運営に関する協議会で検討する。

（工藤）

介護保険事業のアンケート調査内容は

質 介護保険特別会計の高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策定事業において、事業実施内容にある令和7年度のアンケート調査の内容は。

答 令和7年度に実施するアンケート調査の内容は、①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、②在宅介護実態調査③介護サービス事業者調査の3つのアンケート調査の実施を予定している。

結果は、令和9年から令和11年までの3年間で計画期間とする、第10期介護保険事業計画の策定に反映させる。

（天神林）

下水処理場に 太陽光発電設備設置

新年度から若山浄化センター内にP
PA方式で設置される太陽光発電装置
の効果について質疑しました。

質 太陽光発電による費用削減効果を
どのように捉えているのか。

答 令和7年度は設置年のため、設備
導入の効果は見込めないが、令和8年
度以降に反映されるものと考えている。

他に本年1月末に発生した、埼玉県
八潮市の下水道に関わる事故を受けた
現在までの本市の対応並びに新年度の
取り組みについて質疑しました。

(戸井)

地域活性化起業人 連携事業費とは

質 本事業の具体的な取り組み内容は。

答 大小さまざまな事業であるが、庁内各部
署が抱える課題を把握し、動いてもら
うことで、庁内及び地域の課題解決に
向けた取り組みにつながる。

質 庁内各部署とどのような形で連携
した取り組みを進めるのか。

答 DX推進グループの担当業務を中
心に携わっていただき、本グループの
職員と地域活性化起業人が連携をし、
専門的なノウハウや知見を享受し、本
市のDXの取り組みを推進していく。

(金澤)

広報のぼりべつの デジタル化の弊害

質 広報が紙版だけの時は町内会加入
促進の効果があつたが、デジタル化に
よりスマホなどで閲覧できるとその効
果もなくなるので、広報で町内会活動
や町内会費の使途などを伝える考えは。

答 町内会が担っている役割や活動の
様子などを伝えることは、既に町内会
に加入されている方はもちろんのこと、
加入をされていない方にも町内会につ
いて知っていただき、加入の促進や活
動への参加の一助になるものと考えて
いる。

(田中)

防災備蓄倉庫の 拡充の予定は

質 段ボールベッドなども購入してい
くとのことだが、備蓄倉庫を今後拡充
していく予定はあるのか。

答 備蓄倉庫については、市内に16箇
所あり、公共施設敷地内にある物置タ
イプの倉庫のほか、施設の一部スペー
スを倉庫として活用しているが、容量
は少ない状況にある。

今後の拡充については、新たに防災
倉庫を建設することも視野に入れ、当
面は供用廃止が予定されている公共施
設の活用を考えている。

(村井)

重層的支援の取り組みと 新たな施策は

質 社会福祉協議会が推進する小地域
ネットワーク活動の参加町内会数は。

答 78町内会で全体の約84%である。

質 役員のなり手不足の中、新たな取
組みの検討はしているのか。

答 各種関係団体によるぎざぎざぐり
台帳リニューアルプロジェクト会議を
令和6年9月に立ち上げ、今後に向け
た対象者の絞り込みや記載内容の検討
を重ねてきた。

今後も令和7年4月までに会議を開
催し、リニューアル像を作っていく。

(杉尾)

戦後80年、 恒久平和を考える

質 戦没者追悼式に多くの市民の方が
参列していただけるよう、平和教育に
関連した映像・映画の上映会を併せて
実施してはどうか。

答 これまでも戦没者追悼式の開催時
期に合わせて、戦争の悲惨さを知って
もらうために写真パネルを展示する平
和展を実施してきたが、映像を上映す
ることについては、写真パネルの展示
と同様、遺族ではない市民の方に関心
を持つってもらう方法の一つであると考
えている。

(足立)

チボリの森の待機者は

質 令和7年度のチボリの森への措置
目標数が57名となっているが、定員数
と措置目標数の算出根拠は。

答 チボリの森の定員は70名で、現在
の措置者数は48名である。

算出根拠については、過去3年間の
平均措置者数が53名で、新規措置者4
名を見込んだ合計の57名を措置目標と
している。

質 養護老人ホーム入所の待機者は。
答 現在、チボリの森に関しては満床
の状況ではないため、待機者はいない。

(佐々木)

待機児童ゼロに向けた 新たな対策は

質 待機児童の新たな対策は。

答 保育士確保や保育施設内の利用定
員数の弾力化により調整を行う。

さらに待機児童が発生する場合は、
企業が設置する企業主導型保育施設の
地域枠も活用する。

質 企業主導型の利用料金は。

答 一時預かり事業及び緊急一時預か
り事業分と同様に、保育料相当額(暖
房費や教材費等の実費を除く)につい
て、保育施設の保育料との差額の補助
を行う。

(宮武)

令和7年第2回定例会は令和7年6月13日(金)から開催される予定です。

資源ごみの 土曜日収集廃止後の想定は

質 令和7年度から資源ごみの土曜日収集が廃止となり、平日の労働時間が長時間となる懸念もあるが見解は。

答 近年の働き方に関する情勢変化などを踏まえ、サービスの質を維持しつつ、事業者による人材確保に寄与できるように、土曜日収集を廃止した。

労働時間については、一日当たりの収集量の増加が予想されるが、繁忙期の夏場や年末年始においては、収集台数の1台増や人員を増員することで対応できるものと考えている。

(伊藤)

狂犬病予防注射済票交付は

質 狂犬病予防注射済票の交付が市内同様、室蘭市と伊達市の動物病院でも新たに行われることについては。

答 昨年10月の決算審査の岩田議員からの質問においても、犬を飼っている方の中には市外にかりつけ医がいることや、市外で狂犬病予防注射を受けている内容をお受けしており、市民の方の利便性の向上が図れるよう、交付に対応することにしたものである。

狂犬病予防注射済票の交付の変更点は、画期的な行政サービス向上です。

(岩田)

ブルーカーボンで 一挙両得の施策を

質 エゾバフンウニ二種苗放流事業補助金と併せ、藻場の再生はエゾバフンウニの水揚量の増加に期待すると同時に、ブルーカーボンのクレジット化にもつながると思うが本市の考えは。

答 母藻を供給することで、種藻場が形成され、藻が順調に生育することにより、海洋性体系の保全も進むものと考えられる。ブルーカーボンのクレジット化は、地球温暖化対策計画の吸収源の取り組みの一つであることから、重要な取り組みと考えている。

(今野)

本市固有の 再生可能エネルギーは

質 再生可能エネルギー普及促進事業費について、本市の特徴的な再生可能な潜在的エネルギーに地熱があるが、この利用に関する考えは。

答 地熱はカルルス地区のポテンシャルが高いことから活用が望ましいと考えているが、以前から地熱利用に伴う温泉への影響が懸念されている。

まずは温泉利用に携わる方々の意向を最優先し、地熱利用を検討する事業者が出た場合は、その方々の理解を得ることが重要であると考えている。

(若木)

企業誘致の実態と 将来展望は

質 企業誘致の現状と今後の展開は。

答 企業誘致イベントや東京の企業への訪問時における情報の提供や収集、日本工学院北海道専門学校のサテライトオフィスを中心とした企業誘致モーターツアーにおける意見交換などにより情報収集をしている。

本市の特色のある誘致活動であるモーターツアーにより、同専門学校と関連性の高い企業を中心にサテライトオフィスの利用を推進するとともに、事業展開が図れるよう誘致を進めたい。

(成田)

教職員用パソコンの 処分方法は

質 教職員用パソコンの更新が行われているが、更新したパソコンの処理とデータ消去はどのように行うのか。

答 教職員用パソコンは、現在進めている更新作業が終了したのち、小型家電リサイクル法に基づく認定事業者への委託を検討している。

データの消去は、専門業者への依頼やアプリによる消去、物理的破壊などが考えられるが、いずれにしても個人情報漏洩しないよう適切に処分したいと考えている。

(小栗)

ピンクシャツデーに 考える多様性

本年も、市内の児童生徒による実行委員会が主体となって行われた、いじめ反対運動ピンクシャツ大作戦に登別市議会も参加をさせていただきました。

いつもはスーツ姿の目立つ議場ですが、この日は市長や議長はじめ、出席者全員がピンクシャツを着用し、明るい雰囲気の中で議論が行われました。

さて、登別市議会では住民自治を体現した多様性のある議会をビジョンに掲げており、ピンクシャツデーと共通する理念を持っています。

異なる立場や価値観において、時には意見が対立することもあります。が、まずはお互いの考えを受け止め、尊重し合うことは、多様な住民の想いを反映することにつながっています。

いまだ社会には多くの対立や孤独が存在していますが、私たち議員は、それらの見えない声や想いにも寄り添い、より多くの住民の幸せを追求し続けなくてはなりません。

ピンクシャツデーはその使命を見つめ直す特別な日となりました。

(辻)